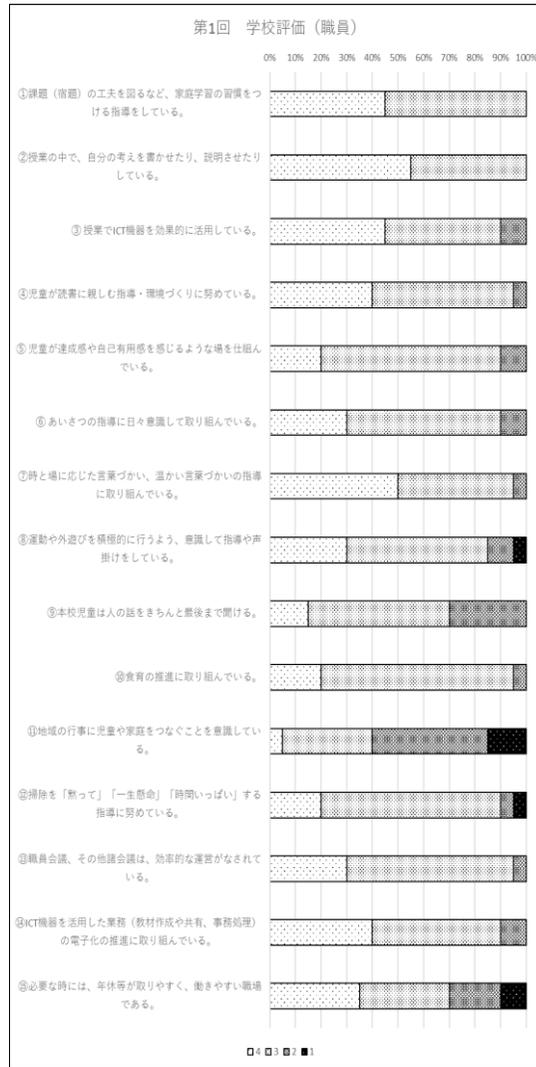


令和6年度 第1回 学校評価アンケート（職員）				
		4点満点	R5第2回比較	肯定率
 学び	①課題（宿題）の工夫を図るなど、家庭学習の習慣をつける指導をしている。	3.5	0.1	100%
	②授業の中で、自分の考えを書かせたり、説明させたりしている。	3.6	0.2	100%
	③授業でICT機器を効果的に活用している。	3.4	0.2	90%
	④児童が読書に親しむ指導・環境づくりに努めている。	3.4	0.2	95%
	⑤児童が達成感や自己有用感を感じるような場を仕組んでいる。	3.1	-0.3	90%
 心と体	⑥あいさつの指導に日々意識して取り組んでいる。	3.2	± 0	90%
	⑦時と場に応じた言葉づかい、温かい言葉づかいの指導に取り組んでいる。	3.5	0.3	95%
	⑧運動や外遊びを積極的に行うよう、意識して指導や声掛けをしている。	3.1	0.1	85%
	⑨本校児童は人の話をきちんと最後まで聞ける。	2.9	0.1	70%
	⑩食育の推進に取り組んでいる。	3.2	0.2	95%
 絆	⑪地域の行事に児童や家庭をつなぐことを意識している。	2.3	-0.3	40%
 環境	⑫掃除を「黙って」「一生懸命」「時間いっぱい」する指導に努めている。	3.1	-0.2	90%
	⑬職員会議、その他諸会議は、効率的な運営がなされている。	3.3	0.4	95%
	⑭ICT機器を活用した業務（教材作成や共有、事務処理）の電子化の推進に取り組んでいる。	3.3	0.2	90%
	⑮必要な時には、年休等が取りやすく、働きやすい職場である。	3.0	0.1	70%



○昨年度から教職員の入れ替わりがあった中で、昨年度に比べて「時と場に応じた言葉づかい、温かい言葉づかいの指導に取り組んでいる。」が0.3ポイント上がり、「児童が達成感や自己有用感を感じるような場を仕組んでいる。」という項目が0.3ポイント下回っている。特に自己有用感、主体的な行動への源となる重要な感情なので、学校生活の中でしっかりと感じることができるよう教育活動を仕組みたい。

○「地域の行事に児童や家庭をつなぐことを意識している。」が前回を0.3ポイント下回り、2.3ポイントの結果だった。山口型地域連携教育を進めていくうえでも、学校と地域と家庭の連携は欠かせない。学校が核となって、地域と家庭をつなぐ役割を果たしていきたい。

○「職員会議、その他諸会議は、効率的な運営がなされている。」が0.4ポイント上がり3.3ポイントとなった。働き方改革の1つとして、大きな変化は望めないものの、こつこつと工夫している成果を教員も感じ取っているということが言えるだろう。